



# 何かしたい 役に立ちたい

(小学生が行った避難所ボランティア)



## ぼくたちにできること

ぼくの家族は、1年1組の教室で、34人の人たちといっしょに避難生活をしている。着るものも食べるものもあまりないけど、みんなで分け合って協力している。

ぼくも食べ物をもらいに行っている。初めの3、4日はあっという間に過ぎたけど、その後、ぼくはこれでいいのかなと思うようになってきた。小学校には、たくさんの子どもが避難してきているが、みんなで集まってすることがない。小さい子は、ぼくら以上にたいへんだらうと思って、ぼくたちにできることはないか考えた。そこで、先生に、

「紙しばいをしようと思うんですけど、どうですか。」と聞いた。

「自分たちでやろうと思うことは、どんどんやれ。」と言われたので、小さい子を集めて、今やっている。

毎日、ほんの20分くらいだけど、3才から低学年くらいの子が集まって、真けんに聞いたり、おもしろいところでわらったりするすがたを見ていると、ぼくたちもやってよかったと思う。



(写真提供 神戸新聞社)

## 給水車が来ました

地震の後 水が出なくなった  
みんな こまった  
給水車が来るのを 今か 今かと待っていた

給水車が来た  
でも マイクの音が みんなには聞こえない  
白転車で 知らせてまわることにした

「給水車が来ました  
給水車が来ました  
中公園の西出入口に集まってください」

はじめは はずかしかったけど  
言っているうちに 慣れてきた  
それどころじゃない  
だんだん 楽しくなってきたんだ  
近所のおばさんに  
「いつも ありがとう」と 言われた  
てれくさかった

水が出たときは うれしかったけど  
この仕事 もう少し 続けたい気もした

